コラム２　夢を実現しよう

「思いやりのある子どもを育てたい。」・・・これが私の教師になった時の夢です。

教師を続ける中で現実と理想との狭間で苦しむことはありましたが、私はこの夢を捨てたことはありません。

授業をしていても、思いやりをもって授業に参加しているか気になって仕方がありません。ですから、話を聞かない子どもには腹が立ちます。そして、そのための指導もします。

そのため「授業進度が遅れるかも」、「でも、子どもの将来を考えると」、「それにしても時間が足りない。」等と、いつも悩み、苦しみながら授業をし続けてきました。

振り返ってみると、この悩み、苦しんだことがよかったと思っています。

それは、

・聞く姿勢は、年度や学期の始めに育てる。

・同じような授業を毎日繰り返すのではなく、年間の授業時間を見通して、学習姿勢に重

20×20

点を置いた授業、徹底して内容を教え込む授業など授業を変える。

・ある教科で身につけさせたい学習姿勢は、その教科だけでなく、全教科、領域の中でも意識し指導し続ける。

・一度に多くを要求せず、1つの学習姿勢を8割以上の子が身に付くまで徹底する。

などと、授業を作るための様々な知恵を体験的に学ぶことができたからです。

つまり、悩んだり苦しんだりする機会は、学びの機会になるということです。

ですから、大いに悩み苦しみましょう。ただ、これは誰でも避けたいことです。できれば効果的に学びの機会を作りたいものです。

それには、NLP心理学で利用される意識レベル（ニューロロジカルレベル図1）を利用するとよいでしょう。

アイデンティティレベルは、あなたが願っている子どもの姿です。その願いを実現するための土台となっているのが、信念・価値観

や能力や行動です。下位レベルにいくほど多様に広がっています。一番下の土台となる環境は、あなたが事前に準備できる授業に必要な教材や学習する学級の雰囲気、指導計画などになります。土台がしっかりしていなければ、行動がばらついたり、能力が身に付かなかったり、誤った見方や考え方を身につけることになります。

　つまり、教材研究をこの意識レベルに合わせて行うと「今の自分には何が必要なのか。」が分かり易くなります。

　毎日の授業は、あなたの願いの実現のための機会です。そして、その夢の実現に向かうための努力が教材研究なのです。

　さて、あなたはどんな子どもにしたいと思い描いているのでしょう？

　私の好きな詩の一節（高村光太郎「道程」より）です。

　僕の前に道はない

　僕の後ろに道はできる

20 × 20